

# 動物医薬品品質検査 改善計画

## 実施地域

ダマスカス



## 1. プロジェクト要請の背景

シリアは食糧自給率の向上をめざしており、農業開発の推進が石油開発とならび開発計画中最も重要であるが、シリアには肥沃な土地が乏しいため、畜産業の振興が大きな課題であった。しかし、シリアでは、畜産業振興において問題となっていた家畜の疾病・栄養不良・保健衛生に関する対策のための資金・技術者とともに不足していた。

このような状況のもと、シリア政府は我が国に対し、家畜衛生を推進していくうえで必要な人材を育成するための研究協力を要請した。しかし、我が国による事前調査の結果、シリア側の研究体制が不十分であったため、我が国は、協力内容を動物医薬品の品質検査技術の移転に絞り、個別専門家チーム派遣によって対応することとした。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1995年10月1日～1998年3月31日

### (2) 援助形態

個別専門家チーム派遣

### (3) 相手側実施機関

農業農地改革省家畜衛生局

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

- 動物医薬品品質検査制度が確立される。
- 動物医薬品の製造・運用管理が適切に行われる。
- 家畜衛生管理体制が強化される。

#### 2) プロジェクト目標

動物医薬品品質管理部において、動物用抗菌剤と一般薬に関する品質検査技術が向上する。

### 3) 成果

- a) 抗菌剤のバイオアッセイ法<sup>1)</sup>が習得される。
- b) 抗菌剤の理化学的定量法が習得される。
- c) 抗菌剤の確認試験法が習得される。
- d) 一般薬の定量法が習得される。
- e) 一般薬の確認試験法が習得される。

### (4) 投入

#### 日本側

長期専門家	1名
短期専門家	3名
研修員受入	4名
機材供与	0.35億円

#### シリア側

カウンターパート	7名
施設	
ローカルコスト	

## 3. 調査団構成

団長・総括：平山 紀夫 農林水産省動物医薬品検査所検査第2部長

評価分析：小池 良治 農林水産省動物医薬品検査所動物用医薬品国際技術専門官

評価管理：神谷 哲郎 JICA 企画部地域第三課

## 4. 調査団派遣時期(調査実施時期)

1999年1月31日～1999年2月10日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

長期・短期専門家の派遣、カウンターパートの日本研修、機材の供与は適切に行われた。本プロジェクト

では、日本国内において動物医薬品検査所及び財団法人畜産生物科学安全研究所から技術面での支援が得られ、加えてカウンターパートも技術習得に積極的に取り組んだことから、技術移転は円滑に進んだ。

## (2) 目標達成度

カウンターパートは、本プロジェクトにおいて作成された標準操作手順書に基づき、供与された品質検査用機材を活用して独自に品質検査を実施できるようになっており、動物医薬品品質管理部における動物用抗菌剤と一般薬に関する品質検査技術の向上という本プロジェクトの目標は達成されたと判断される。

## (3) 効果

動物医薬品品質管理部において動物用抗菌剤と一般薬に関する品質検査技術が向上したことによって、シリアにおける動物医薬品の品質も向上しつつあり、動物用医薬品業界の成長にも貢献していくものと思われる。

## (4) 計画の妥当性

動物医薬品の品質検査業務の充実は適正な動物用医薬品の供給をもたらし、さらにはシリアにおける重要な課題である畜産業の発展にも寄与していくものであることから、本プロジェクトの計画は妥当である。

## (5) 自立発展性

シリア側の予算措置、人員配置等が現状維持されれば、本プロジェクトを通じて構築された動物医薬品品質管理体制は維持されると思われる。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

本プロジェクトにおいて作成された標準操作手順書は、カウンターパートへの技術の定着に役立ったばかりでなく、カウンターパートが後進に対して検査手法を引き継ぐための媒体としても活用され、動物医薬品品質管理部の品質検査体制の確立に大きく寄与した。

### (2) 提言

本プロジェクトを通じて、シリア側の技術レベルは動物医薬品の品質検査を実施するに十分なレベルに達した。今後は、検査技術の進捗・改良に対応して、必要に応じ日本研修受入れなどによって支援していくことが望ましい。

注1) 抗菌剤の候補物質について、抗菌性の有無を調べるため、候補物質にカビ等の生物を噴霧して実験を行う方法